

”におい”の異常 (嗅覚障害)について

Q 嗅覚障害と新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルスの感染で、他の症状がなくても、先行して急に「におい」の異常(嗅覚障害)や「あじ」の異常(味覚障害)を自覚することがあります。このことで各医療機関に多くの問い合わせがきています。

鼻やのどは新型コロナウイルス量が多くのことが知られており、ウイルスそのものがにおいや味のセンサーに直接作用しているのか、味覚の異常は嗅覚の異常と関連して起こっているのか、あるいはその逆なのかはこの原

稿を書いている現時点ではまだ解明されていません。

新型コロナウイルス感染を判断するにはPCR検査(核酸増幅法)を行います。しかし、感度が悪い、つまり検査で陰性だったからといって100%かかっていないとはいえないという問題や、検査機器が十分に足りていない、時間がかかるなどの問題もあります。現在日本のメーカーで結果判定の時間が大幅に短縮できるよう開発が進められています。血液を採って行う抗原・抗体検査もありますが、準備段階で今後が期待されます。日本耳鼻咽喉科学会では嗅覚障害・味覚障害以外に症状がな

い場合は、まず2週間の不要不急の外出を控えることをすすめています。発熱や咳、息苦しさ、だるさがでてきた場合は保健所や感染症指定医療機関にご相談ください。味覚・嗅覚障害のみで他に発熱や呼吸器の症状などがない患者さんが一斉に最寄りの医療機関医に受診されますと、対応できない事態になりますのでご協力をお願いします。

味覚・嗅覚障害の対応については日本耳鼻咽喉科学会のHPでもご確認頂けます(2020年4月時点の対応です。検査の増産、治療の進歩によって変わります)。

Q 嗅覚障害の原因は

嗅覚障害の原因として最も多いのは鼻づまりによるにおいの障害で、疾患としては慢性副鼻腔炎いわゆる蓄膿症です。嗅覚障害で受診される方の約半数を占めています。副鼻腔炎によって生じたポリープが嗅覚細胞への空気の流れを遮断し、嗅覚障害を引き起こします。2番目に多いのは感冒、つまり風邪です。風邪をきっかけに嗅覚障害も発症し、風邪の症状が治ったのに嗅覚障害だけ残ってしまうことがあります。ライノウイルスなどのウイルス感染によって嗅粘膜が変性することにより、嗅覚障害が出現すると言われています。3番目に多いのは外傷で、頭をぶつけたことよって発症することがあります。末梢神経といっても、実は脳の嗅球という嗅覚に係る脳の部分から鼻の中へにおいの神経が伸びています。脳が外傷で揺さぶられ

Q 嗅覚障害の治療法

ること、その神経が切れてしまったためといわれています。その他、加齢など様々な原因があります。

慢性副鼻腔炎が原因の場合には、薬物療法や鼻処置が有効です。これらの治療で効果がない場合には内視鏡下副鼻腔手術の対象となります。感冒が原因の場合は、自然に治る場合と治るのに時間がかかる場合と様々です。自然に治らない場合は根気よく内服薬や点鼻薬で治療をします。また臭いをかぐ練習(リハビリ)も重要であると言われています。外傷に伴う嗅覚障害については有効な治療が見つけられていないのが現状です。新型コロナウイルスによる嗅覚障害に対する治療も現時点では有効な治療法はありません。このように治療は嗅覚障害の原因によって違うため、耳鼻いんこう科医師にご相談ください。

今月の先生



岐阜市民病院 耳鼻いんこう科
梅田実希 先生

○専門分野
耳鼻いんこう科一般